令和８年度第２回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会 議事録

日時：令和８年１０月１４日（月）　午前１０時から午前１１時１３分
場所：おおぶ文化交流の杜図書館　サポーター室２

＜出席委員＞ ６名 （敬称略）
松岡　礼子（至学館大学准教授）委員長
鈴木　善博（人間環境大学准教授）副委員長
加古　有子（名古屋学芸大学教授）
神田　由美（図書館サポーターズクラブ）
赤堀　路世（大府市国際交流協会）
竹内　紀人（知多メディアスネットワーク株式会社）

＜事務局＞
市民協働部長
文化交流課長、文化振興係長、文化振興係主査、主任
おおぶ文化交流の杜図書館長、チーフ、TRC 公共図書館営業部長

＜傍聴者＞なし

１　あいさつ

２　議題
（１）令和８年度第１四半期事業実施報告について
※資料１～５に基づき館長説明
①施設利用状況
②蔵書貸出統計
③地区別登録者数、貸出者数
④事業実施報告
⑤発生した事故・ご意見

（委員）施設の利用状況について、予約点数が若干増加している。利用者が目当ての本を借りるために来館し、他の本を借りることが少なくなった結果、全体の貸出点数が減少しているのではないかと感じた。また、新聞のクロスワードパズルや数独への書き込みについて、例えば該当部分のコピーを設置することは、著作権上問題があるのか。書き込みをする人は、当日の新しい新聞に書き込んでいるということか。

（事務局）当日の新聞に直接書き込みがされている。現在は、該当部分に透明なシールを貼り、書き込みを消せるようにしているが、シールの上から書き込まれてしまう可能性もある。一時期、新聞をカウンターでの貸出制にしていたが、閲覧の利便性を損なうため、現在は自由に閲覧できる場所に設置している。書き込みは毎週金曜日に発生しており、おおむね書き込みをしている人物を特定できているため、現時点ではそれ以上の対応は考えていない。
（委員）館内の話し声によるトラブルは、毎回同じ人物によるものか。
（事務局）特定の人物によるものではない。
（委員）耳が不自由なため、話し声が大きくなってしまうということか。
（事務局）今回の事案については、そこまで高齢の方ではない。
（委員）図書館としては、静けさだけを重視するのではなく、もう少し交流のある図書館を目指しているはずである。
（事務局）基本的には、多少の生活音や会話音は許容範囲であるという認識をスタッフ間でも共有している。
（委員）静かに利用できるブースはあるか。
（事務局）社会人席は、静かに利用できるブースとなっている。
（委員）蔵書・貸出統計の回転率について、新書とビジネス分野はもともと低いが、今回さらに低下している。また、ブックスタートについても減少している。蔵書数が増加したことによって回転率が低下しているのか気になった。新刊に対する要望なども含め、状況を確認・分析する必要があると考える。また、大人の司書体験が想像以上に好評だったようで、大変よい取組だと思う。今後も継続してほしい。継続する中で、上級編の実施や参加人数の拡大、参加者による特集コーナーの企画などができると面白いと思う。
（事務局）大人の司書体験は好評をいただいているため、来年度も実施する予定である。
（委員）７月から実施している未就学児向けスタンプラリーは、素晴らしい取組だと思う。私の勤務先の大学でも同様のキャンペーンを実施しており、参加者にクリアファイルを配布している。未就学児だけでなく、中学生や高校生に対しても、おぶちゃんグッズなどの記念品があるとよいのではないか。
（委員）小学校の図書まつりでは、絵本の表紙を集める取組を行ったところ、こどもたちが喜んでいた。
（委員）東山こども幸齢者交流センターでは、来館者にスタンプを押し、スタンプが貯まると、こども・大人を問わず館内で利用できるポイントになる取組を行っている。ポイントは館内のカフェや、センターまつりでの物品購入などに利用できる。このような取組は大人にも喜ばれると思う。また、９月 27 日（日）に開催された国際交流協会主催の多文化子育てサロンでは、外国人親子を対象に図書館の館内見学などを実施し、未就学児を含む約 13 組が参加した。その際、外国人親子の意見を聞く機会があった。ベトナム出身の母親

からは、図書館が好きで、日頃からこどもと一緒に来館し、日本語の絵本を借りているが、ベトナム語の絵本があれば借りたいという声があった。また、ベトナムにいた頃からよく本を読んでいたとのことであった。一方、館内のベトナム語の絵本は冊数が少なく、他の言語の資料に埋もれて見つけにくい状況であった。今後は、ベトナム語をはじめとする多言語資料の充実とともに、利用者に分かりやすい配置や周知にも配慮してほしい。

（委員）小さな問題については、さまざまなアイデアによって解決できるのではないかと思う。日頃からさまざまな意見を聞き取るとよいのではないか。

（２）読書活動推進計画 2030 の策定について

※資料６－１・６－４に基づき文化振興係長説明

（委員）こども司書は、大変興味深く、素晴らしい取組だと思う。国語の教科書にも学校図書館の使い方が掲載されており、特に東京書籍の教科書は内容が充実している。しっかり学習すれば、司書としての基礎的な知識が身に付くのではないかと思う。

（委員）不読率が前回調査(R6)と比較し、0.2 ポイント減少だと報告を受けたが、本計画案に反映している不読率の目標値について、どのような根拠や算出方法に基づいて設定したのか。また、どのような取組によって目標値を達成することを想定しているのか伺いたい。さらに、地域の中で本を通じたコミュニティが形成され、小学生・中学生・高校生が互いに本を紹介し合えるような雰囲気づくりにも期待している。

（事務局）市内の全小中学校では、週２～３回、15 分程度の朝の読書タイムが設けられており、本来であれば不読率は０％に近い割合となるはずである。しかし、９月に実施したアンケートでは、想定以上に不読率が高い学校もあった。その要因として、朝の読書タイムに読書以外の活動を行っている学級があることに加え、タブレットによるアンケート回答時に、「電子書籍や図書館で借りた本は含むが、教科書は含まない」という条件を児童生徒が読み飛ばしたり、誤って回答したりした可能性が考えられる。今一度、徹底的に朝の読書タイムなどの読書環境を整え、本の楽しさを伝えていくことで、不読率 10％未満という目標は十分達成可能であると考え、設定している。なお、中学生については、受験期であることや、単語帳などを読む機会が増えることなども考慮し、小学生よりも緩やかな目標値としている。

（委員）ブッククラブのような活動があるとよいと思うが、こどもたちがいつ来館するか分からず、活動をまとめる人もいないため、実施は難しい面もある。近年、中学校では文化系の部活動が少なくなっているため、図書館で英語クラブなどの文化系の活動ができるとよいのではないか。そうしたクラブの活動場所として図書館を活用することも考えられる。

（事務局）アンケートの集計結果では、学校間で不読率に差が見られた。設問の内容

を正確に読み取れていない可能性も考えられる。

（委員）学校によって差はあると思うが、教育関係者の知人でも、読み放題パックについて知らない人が多くいた。また、小学校だけでなく、中学校の図書委員に対する支援を行う予定はないのか。

（事務局）読み放題パックについては、一昨年から吉田小学校で導入し、好評だったため、全小学校での実施を開始した。各学校の校長には周知しているが、すべての教職員まで情報が伝わっていない可能性はある。一方、児童のタブレットには読み放題パックのアイコンが表示されているため、児童には周知されていると考えている。

（委員）こども司書の取組を実施すれば、メディアからも注目されるのではないかと思う。一過性の取組とならないよう、継続して実施してほしい。

（事務局）こども司書のプログラムを実施した場合、県内では４～５例目程度になると思われる。

（委員）参加した児童が、学んだことを学校図書館に持ち帰り、活用できるような内容になることを期待している。

（委員）参加した小学５・６年生が、中学生になっても図書館を利用し続けられるようになるとよい。こども司書の取組が、中学生や高校生の居場所づくりにもつながるのではないかと思う。一度きりの取組で終わらせず、参加したこどもたちが、その後も継続して図書館を利用できるような仕組みづくりが重要である。

（委員）図書館子どもまつりへの参加だけでなく、継続的なボランティア活動にもつながる取組になるとよい。

（委員）参加者が同窓会のように集まれる仕組みがあるとよい。

（事務局）サポーターズクラブのような形で、学校の枠を超えて情報交換ができるコミュニティにしていきたい。

３　その他

・令和９年度第２回図書館運営委員会 視察先について

①豊橋市まちなか図書館

②安城市図書情報館

③日進市立図書館

④小牧市中央図書館

上記の優先順位で準備を進めることとする。

以上